

JENESYS2019 ASEAN 派遣プログラム第 9 陣の記録 テーマ：スポーツ交流（チアリーディング）、派遣国：カンボジア

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 の一環として、チアリーディングに取り組んでいる大学生等 15 名が 2020 年 2 月 18 日～2 月 26 日の 8 泊 9 日の日程でカンボジアへ派遣され、日本の社会、文化、歴史に関する理解促進、及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し、「スポーツ交流（チアリーディング）」をテーマとしたプログラムに参加しました。一行は、カンボジア訪問中、日本カンボジア文化交流イベントである絆フェスティバルに参加し、チアリーディングについて実演・説明を実施しイベントを盛り上げたほか、ノートン大学とのチアリーディング合同練習を行い、国の違う同世代のチームと絆を築きました。加えて、日本の無償資金協力で再建されたチュルイチョンバー橋を視察するとともに、JICA 事務所を訪問し日本の国際貢献に関するブリーフを受け知見を深めました。また、プノンペン市内、王宮・国立博物館、トゥール・スレン博物館、ワットプノム等を視察し、カンボジア文化・社会・歴史に対する理解を深めたほか、教育・青少年・スポーツ省を訪問、現地の人々と交流を通して、カンボジアの文化に対する理解を深めました。一行はプログラム中、カンボジアにおける対日理解の促進、両国間の信頼関係増進の基盤強化を目的として、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、カンボジア訪問経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】 帝京大学 15 名

2. 日程

- 2 月 18 日（火） — カンボジア・プノンペン着
- 2 月 19 日（水） — 【オリエンテーション】
— 【表敬】在カンボジア日本国大使館
— 【学生交流】ノートン大学との合同練習
- 2 月 20 日（木） — 【視察】国立博物館・ワットプノ
— 【ブリーフィング】JICA（日本のカンボジアへの貢献）
— 【視察】チュルイチョンバー橋
— 【参加】絆フェスティバル開会式（実演）
- 2 月 21 日（金） — 【参加】絆フェスティバル（チアリーディング説明・実演）
— 【講義】日本とカンボジアとの関係について

- 2月22日（土） －【学校交流】ノートン大学
 －【視察】王宮・セントラルモール（ノートン大学学生とともに）
- 2月23日（日） －【視察】キリングフィールド
 －【視察】絆フェスティバル
- 2月24日（月） －【表敬】教育・青少年・スポーツ省
 －【視察】トゥール・スレン博物館
 －【日系企業訪問】プラチナスポーツセンター
 －【ワークショップ】成果報告会準備
- 2月25日（火） －【成果報告会】
 －カンボジア・プノンペン発
- 2月26日（水） － 帰国

3. プログラム記録写真



2月19日【オリエンテーション】



2月19日【表敬】
在カンボジア日本国大使館



2月19日【学生交流】
ノートン大学との合同練習



2月20日【視察】
国立博物館・ワットプノム



2月21日【参加】
絆フェスティバル
(チアリーディング説明・実演)



2月22日【学校交流】
ノートン大学



2月22日【視察】
王宮・ノートン大学学生とともに



2月23日【視察】
キリングフィールド



2月24日【視察】
教育・青少年・スポーツ省



2月24日【視察】
トゥール・スレン博物館

	
2月24日【日系企業訪問】 プラチナスポーツセンター	2月25日【成果報告会】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生（帝京大学）

日本にいて、なんとなくイメージでしかなかったカンボジアが自分の目で見て、体で感じてみないと分からないことがたくさんありました。プノンペンが昔の日本のように発展途中だということにとっても驚きました。また目を背けたくなくなるような歴史も学んだのですが、二度と起こることがないように伝えることが大切だとも感じました。環境汚染や貧富の差などまだまだ抱える問題は多いですが、日本との関係もより深く繋がって友好的な関係が続けばいいと思いました。

◆ 大学生（帝京大学）

自分は大学で子ども教育について学んでおり、大学卒業後も子どもと関わっていきたいと思っています。そのような中今回のカンボジア派遣でのプログラムでは、教育のことについて学ぶ機会があり、ポル・ポト政権の影響で教師が居ないこと、またその事が教育発展に影響をしている事を知りました。子ども達が成長していく上で教育というものはとても大きいものです。特に幼児期の頃の発達是非常に大切だと私は考えています。だからこそ青年海外協力隊などの活動を多くの人に知ってもらえる事で、興味を持った人が少しでもカンボジアへの教育に参加する事ができるのではないかと考えます。まずはカンボジアの現状を多くの人に知ってもらい、興味を持ってもらうことから始めていきたいと思っています。

◆ 大学生（帝京大学）

今回のプログラムでは、現地の方と直接触れ合う機会が多くありました。その中でカンボジアの方々の明るい笑顔や優しさ、温かさをとても感じました。チャリーディング交流や文化交流では特に、学ぶ姿勢が本当に素晴らしいなと感銘を受けました。どんなことに対しても否定的な考え方が全くなく、自分たちから積極的に聞きに来てくれることが本当に嬉しくて、こういう姿勢を自分も持ちたいなと感じました。言葉は違っても、一緒に笑い会えたことがとても心に残っています。教育について、日本と同じ6.3.3制であるということには驚きました。しかし、主要教科

しか行われていない学校が多くあり、その理由として教師不足があるということはさらに驚きでした。日本が行っている青年海外協力隊を広め、多くの人に興味を持ってもらうことが改善に繋がると感じたので、今回新しく学んだことについて、まずは身近な人たちから伝えていきたいと思っています。

◆ **大学生（帝京大学）**

1 番印象に残っているのは、文化交流をさせていただいた時に、日本の遊びがカンボジアでも楽しまれていたことに驚きました。国が違って楽しいと思う瞬間や遊びは同じだなと感じることができました。相違点としては、日本のダンスは全国民が知っている伝統的なダンスはほぼなく、各都道府県で大切にしている感じがします。でもカンボジアは全国民が知って、曲もわかる伝統的なダンスがあり、とても素晴らしいと思いました。一緒に教えてもらった時は、優しく丁寧に教えてくれたり、やろうと誘ってくれたり、とても温かい人々ばかりでとても嬉しかったです。交流も楽しく過ごすことができ、幸せでした。連絡先を交換したので、日本に戻ってももっと仲良くなれるよう、相手の事を知っていった、仲を深めあっていきたいと思っています。とっても幸せな思い出です。ありがとうございました。

◆ **大学生（帝京大学）**

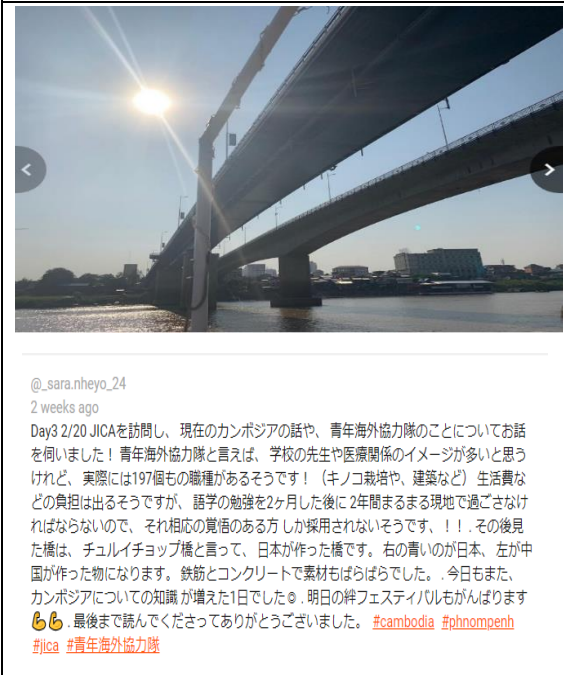
今回のプログラムを通して、私の中でのカンボジアのイメージが一転しました。発展途上国として、まだまだカンボジア全土には行き届かない部分もあると思いますが、日本を始めとした国々の力を借りながらカンボジアは確実に発展を遂げようとしていることを知りました。このプログラムが終わった後も、ここで築くことのできたカンボジアと日本の繋がりや絆をより深めていけるように、プログラムに参加した 14 人が中心となりチーム全員にまず伝え、家族、友人にも発信していくことでカンボジアという国のことを多くの人に知ってもらえるようにしていきます。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ **ノートン大学コーディネーター**

日本のチアリーディングの皆さんは、チアリーディングに対する姿勢や礼儀が素晴らしく、私達の学生にも、皆さんのような姿勢や礼儀作法を学んでほしいと思いました。またお互いがお互いを良く知り、世界へ視野を広げ、今後も柔軟に対応して欲しいと思いました。

6. 参加者の対外発信

	
絆フェスティバル（チア説明・実演）より発信：チアリーディングの魅力や楽しさを伝えたい。(Instagram)	絆フェスティバルより発信 (Instagram)
	
JICA（日本のカンボジアへの貢献）より発信 (Instagram): 日本はカンボジアに様々な支援している。	王宮より発信・ノートン大学学生とともに (Instagram)

 cambo.de.haraguchi 今日は、ポルポト政権時代に知友人から聞いた話のない小さな子供まで多くの人が殺害されたキリングフィールドという場所を訪れました。	 minion_cambodia_cheer いいね! : mana.k12, 他9人 minion_cambodia_cheer Day7 今日はトゥールスレン虐殺収容所に行きました。 killing fieldに続き、残酷なやり方で殺害をしていること知りとても悲しい気持ちになりました。 その収容所はセキュリティーセンターとも呼ばれ、S21と言われている。 元々は学校で子供たちの笑い声が聞こえていた場所なのに、虐殺と拷問の辛い現場となってしまったのは、本当に悲しいと思った。
キリングフィールドについて発信： ポル・ポト政権時代の歴史を学ぶことで 平和構築の大切さを知る。 (Instagram)	トゥール・スレン博物館について発信： 元々は学校であった場所が拷問という場 所になるのは悲しいこと。 (Instagram)

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

カンボジアの人たちは、 笑顔がいっぱいで、 温かい人たちが多い。 	チュルイチョンバー橋  友好橋と呼ばれ、互いの信頼関係が築けていると感じた。
アクション・プランの発表 カンボジアで学んだことをどう発信していくか。私達（14人の選抜メンバー）が他のチームメイトにプレゼンテーションする。大学の食堂でVTRを鑑賞、日本の友達に大学から情報発信し、多くの人に関心を持ってもらう。	アクション・プランの発表 SNSなどで日本以外の国に向けて、日本が環境改善で行った取り組み（ゴミの分別やリサイクルについての情報や動画）を発信して、共により良い環境作りを目指したい。

事業実施団体：株式会社JTB